



4133



114
A 4132



周訪草野臣默憂誠恐誠惶頓首謹言凡人依

レ所ナキ者ヲシテ後移ラス信スレ所ナキ而後惑リス若其依信ス

レ所ナキ者ヲシテ後移リ且ツ惑リサラシメントス難矣哉方今

秋教ノ民ニ入ル日ニ一日ヨリモ熾ナリ國家ノ禍害之ヨ

リ大ナルハナク朝野ノ疾感是之ヲ甚キハナシ蓋

ノ以テ過ウヘカラサル者アリトモ抑亦我レ自ラ牽

逼ナキヲ得ンヤ又我レ一教ノ信スヘキアルトキハ外慕ノ念

歸フ所ナキ我レ一定ノ依レ所ナキトキハ外誘ノ物以

テ牽サルヲ得ス民ノ岷々固リ道ノ邪正ヲ辨セス亦莫

ソ國ノ利害ヲ問フニ甚キナル所ニ順ヒ其危々所ニ

天正十一年四月

金華堂

ノ卑スル所ハ之ヲ曼トシ背ク所ハ之ヲ非トス而我之ヲ卑
セシケルノ教ナク之ヲ順ハシケルノ法ナキトキハ是非ノ相又セ
ル猶々彼ニ入ル固リ深ク咎ウヘキニ非ル也嗚呼是豈ニ
昔ノ以テ過ウヘラサル者トセンカ亦矣ソ我自ラ辜
過無ラサランヤ佛
皇國ニアル今有餘年宣布
編子アラサル所ナク 歸崇至ラサル所ナシ傳流ノ久キ時
ニ弊害ナキニ成ストラトモ其間々民心ヲ維持シ風化
ヲ裨補スルモ亦敷シトセス排毀ノ説起リシヨリ人其功
罪ヲ甄メス猥ニ之ヲ一掃セント欲シ而外之ヲ甚ナ
意アルヲ 顧ミズ内之ニ撫ルノ教ナキヲ審ニセス遂ニ民

ヲシテ其依信スル所ヲ失ハシメ而其自ラ驅ラ教教ニ入
ラシメサル者幾ト希ナリ宣教ノ官興リシヨリ今ニ三年臣
ホタ親ノ其説ヲ聞ストラトモ私ニ以テ必ス儒佛ニ教
ヲ殿ラス 直ニ 神聖ノ道ヲ教ユル者ナラン此誠ニ
國体ノ嚮フ所理ニ於テハ固リ間然スル所ナシ只教化
ノ用愚民ヲ道クニ在シハ其事ニ於テハ恐ラハ未ダ當
ヲ得サラン然夫 神聖ノ道大也幽明ヲ説キ
現未ヲ總ヘ物トシテ遺ス所ナク事トシテ収メサルハナシ只
其迹上古淳朴ノ時ニ在テ而其道自ラ不言ノ間ニ存
スルトキハ言説ノ教未ダ備ラス 而勸誡ノ術未ダ詳ナラ

ス之ヲ道有テ而教ナレト云ハシモ猶可ナルカ如シ苟モ性
情黎備ヲ以テ之ヲ萌シ因果升沈ヲ以テ之ヲ導ク
ニ非レハ將々何ヲ以テ之ヲ説ントス而レノ宣布セント欲ス
ル所ノ者ハ民ノ以テ信ヲ取ル所ニ非ス民ノ信ヲ取ト欲
スル所ノ者ハレノ以テ宣布スル所ニ非ス上下情殊ニ
レテ而レ所教教ナク趣嚮定リ無クシテ外慕隨テ生ス
昔人言ルアリ物必先奪而後養生スト又云内氣虛而
後外邪入ルト嗚呼彼ニ此民ヲ秋教ノ中ニ歐リ其生ヲ
流離ノ際ニ終ラシヤル亦憫クヘキニ非スヤ是臣ノ深ク
國家ノ為ニ憂テ我自ラ幸ノ過アリト云 所以也昔者

豊臣徳川ノ秋教ヲ待ツヤ之ヲ歐ルニ干戈ヲ以テシ
之ヲ處スルニ刑辟ヲ以テス威嚴ノ峻烈ナレ海外ナレ戰
果ス然レ而レ之ヲ教督スルニ佛ヲ以テシ之ヲ検査スルニ僧
ヲ以テスル豈其威力之ヲ勦誅スルニ足ラス而レ僅ニ
援テ桑門ノ手ニ假ル者ナラシヤ蓋シ以テニ教ノ人心ニ
入ル兵威ノ能ク一壓スル所ニ非ス禁令ノ能ク制スル所ニ
非ス毒ヲ逐ニ毒ヲ以テシ楸ヲ拔クニ楸ヲ以テスルノ術
ニ由ラスハ將々何ヲ以テカ之ヲ攘クニ氏ノ為ス所ハ約ニ
見ルコトナレ夫レ當時ノ威嚴有テ當時ノ事スル猶且ッ
如此況ヤ今再升ノ形勢彼此ノ情態昔日ニ同シ

カラサハ天淵ナルトキハ之ヲ待ツ固リ干戈ヲ以テスヘ
カラス之ヲ處スル亦刑辟ヲ以テスヘカラス然而防之獨リ
何ノ方ヲ以テカスル嗚呼勢之至此遂ニ得テ防ノヘカラサ
ル者カ雖然其害ヲ知テ而之ヲ避ケス文ヲ避ルノ方有テ
之ヲ用セハルトキハ猶自ラ畫テ為サハルカ如シ是臣ノ深
ク國家ノ為ニ惜テ而黙止スルニ忍ヒサル所以也獨リ臣
ノ文ヲ憂惜スルノミナラス凡ソ天下ノ学ヲ稱スル者亦
曾ラ之カ為メニ疾蹙セスシハアラス古来三学ノ相容シ
タル攻撃止ムニ時ナシ諸宗ノ相閱ケル殆ト旗鼓ヲ交
ヘリ耶止稱ノ事發リシヨリ三学相親ニ諸宗相盟フテ先

ニ讐視スル者ト固リ同日ノ形ニ非ス他ナシ疾ハ所同シテ
而憂ル所一ナハナリ若禁令一トモ地ニ其教公行スルニ至
ラハ先ニ相親ニ相盟フ者台後以テ之ヲ擯シ其紛々擾
々セルヤ殆ト不測ノ憂ヲ釀サン臣依テ以為ノ今ノ人猶
防邪ニ志アリ今ノ民猶佛教ニ習深ス 朝廷若其
教ノ信スヘキヲ表シ以テ防邪ノ職ヲ盡サシメハ庶幾クハ
瀋コノ患ヲ免シシケルニニカアラシ物量ニハ聞ク浦上邪徒
ノ富山縣ニ請ヤル、某僧之ヲ説テ悔悟セシム後同縣
酸鼻寺ヲ合シ教而ノ僧侶ヲシテ一院ニ居處セシメ
加之邪徒ヲシテ亦此ニ同居セシム彼徒僧侶ノ居處ヲ

見テ歎ク曰ク先ハ某僧ノ懇請ヲ聞方ニテ天教ノ佛
ニ如キナルヲ領セリ今ヤ官佛ヲ待ツ如クナルトキハ
佛亦不足信也果然則我寧ロ先ノ天教ニ從クニ
及シテ固ラスト嗚呼是レ以テ少ク蚩々ノ情ヲ察スルニ
足リ臣身以テ防邪ノ術他ニモ存教ノ信スヘキヲ表
シ以テトノ用ル所ニシテ知ラシメシニハ如キラスト或曰佛
ニ西竺ノ教也朝廷ノ用スヘキ所ニ遊ス若此ヲ用
ヒハ耶魯ニ孰與ト臣ヲ以テ之ヲ見ルニ此レ千有餘
年前ニ至ヘテ今ニ論スヘキ所ニ遊ス其行ルニ已ニ久
ク其重スルニ已ニ萬キトキハ是レ我レノ用ル所ニシテ而

之ヲ禁シ之ヲ賤シハ固リ今ノ計ニ非レ也然而之ヲ用テ
用サルノ教ヲ至シ之ヲ置テ置カサル政ヲ施ス民ノ方
嚮ニ惑フ所以ニシテ臣未ダ其說ヲ知ラサル也况ヤ仁義
禮智漢土ニ格ラス淨樂我常竺邦ニ出ラス其教理
固リ我ニ合メ民ノ之ヲ視ル未ダ曾テ西土ヲ以テ望マ
セハ其教義ヲ正シ其規律ヲ新シモハ則是我道ヲ
明シシ我政ヲ裨ル者ニテ何ソ必シモ外視スルニトラセン果
然則今ノ備ヲ督メ今ノ民ニ向ヒ今ノ教ヲ正フレテ今ノ
政ヲ布キ民ヲシテ依定スル所有テ信從スル所ニ安セシメハ
之ヲ驅テ教ノ中ニ入ラシメント欲スルモ得ヘカラスシテ

外務百端術ヲ巧ニスルモ未タ以テ懼シク為スニ足ラサラ
ニ是誠ニ時務ノ最モ先ニスヘキモノニシテ之ヲ行フ最
易キ所也曰然ラハ宣教ノ官ノ如キ之ヲ如何セシ臣以為
政教ノ相離ルヘカラサル周リ輪翼ノ如シ政權已ニ以テ
アリ教柄豈獨リ下ニ屬スヘシヤ且夫天下ノ寺院万
ヲ以テ教フテ其僧侶マダ幾倍ナルヲ知ラス之ヲ規律
ヲ新ニシ之ヲ教義ヲ正ス固リ一夫權力ヲ持セスハ之
ヲ能ク濟スベトナラシテ其事ニ通シ其情ニ達スルニ必
ニ久ク恐クハ功ヲ竣ヘ難ヤラシ曩ニハ寺院寮ノ設ヤ
リ今ヤ一廢跡ノ見ス曩ニハ宗規僧風ヲ整正スヘ

キノ令アリ今ヤ誰ヤセテ督スルヲ知ラス若如是ニシテ
日ヲ終ヘハ教規何ノ日ニカ定ルベトヲ得ニ而於教何ノ
日ニカ防テトヲ得ニヤ臣是以請宣教ノ官ニ換ハニ更
ニ教義ヲ總ルノ一官ヲ以テ寺院ヲ管シ僧徒ヲ督
スル云テ待テス凡ソ天下ノ教タル皆官知シサル所ナク督
正セサル所ナク而テ專恣雜亂以テ國体ヲ傷ト
朝政ヲ妨クルノ害ナガラシメハ庶幾クハ以下清齊ク
政教相扶ノ域ニ至ラシ嗚呼 皇政ノ隆ナル而
度草ラサルナク而事奉ラサルナク而教ノ以テ政ニ配
風化ヲ倡導シ民心ヲ維持スル者ニ於テ整正未ダ其

緒ニ著カサルモ一夫遺憾ナラスヤ若夫秋教ノ害
ニ至テハ深ク異司ニ恐ル、所育テ而臣實ニ文ヲ言ニ
忍ビカレ也臣在愚敢テ自ラ測ラス叨ニ政教ヲ議ス衆
萬尤ニ當シリ激切ニ懼ル至ニ堪ヘス臣默雷誠恐誠
惶頓首謹言

